

## 第2章 まちづくりの指標

### 1. 将来人口とまちづくりの方向性

総合計画は、勝山市を50年後、100年後まで発展させるための最初の10年間の設計図です。長期的展望に立った新しいまちづくりの体制を構築し、効率的、効果的な行財政運営を進めるためには、過去の自然動態、社会動態を踏まえ、今後の社会経済環境の変化を見越した将来人口の設定が必要です。

統計的手法によって推計される平成32年度における勝山市の人口は22,254人ですが、積極的な政策展開により、特に20代から30代の今後、結婚や出産を予定している年齢層への働きかけを中心にしながら、併せて都会で退職を迎え第2の人生をアクティブに送ろうと考えている「これから世代<sup>11</sup>」の年齢層に対してもふるさとへの回帰を促すことで、推計人口を約750人上回る23,000人を将来人口として想定します。

また、今後は人口の減少と核家族化が並行して進行すると予想されるため、一世帯あたりの世帯員数を現在と同じ2.95人と推計して、平成32年度における世帯数を7,800世帯と想定します。

人口減少を抑制し、想定人口を実現するための具体的なまちづくりの方向性として、住宅取得等に対する助成やUターン、Iターン事業をはじめ、雇用対策、雪対策、子育て支援策、過疎化対策等を計画的かつ総合的に進めることで、若者のふるさとに住み続けたい、ふるさとに戻りたいという思いに応えられるよう定住化を推進していきます。

雇用対策については、既存産業の活性化のみならず、時代の変化に対応した起業、異業種への転換および新規企業の誘致を図るとともに、観光振興や就業地の広域化に対応した交通網の整備を目指します。

雪対策については、先進的、総合的な防災対策を併せて推進し、誰もが安全に安心して暮らせるまちの実現を目指します。

子育て支援策については、これまでの政策をさらに充実するとともに、教育力の向上や小中学校の再編などによる望ましい教育環境の向上を目指します。

過疎化対策については、市内でも最も過疎化の進行が激しい北谷地区をモデルとして市内全域の基礎的コミュニティおよびその集合体となる各地区の活性化、再生を目指します。

**平成32年度将来人口 23,000人と想定**

<sup>11</sup> ※これから世代

退職後の第2の人生をアクティブに過ごしている、あるいは過ごしたいと考える方々を表現する勝山市でつくられたことば。

## 2. 人口構成

平成32年度における勝山市の人口構成を次のとおり想定します。

- ・年少人口（0～14歳） 2,195人（9.5%）
- ・生産年齢人口（15～64歳） 12,284人（53.4%）
- ・老年人口（65歳～） 8,521人（37.1%）

[
 老年人口の内、65歳から74歳の高齢者人口 4,160人（18.0%）  
 75歳以上の高齢者人口 4,361人（18.9%）

※推計人口に対する想定人口の増加分は、若年層のふるさと回帰を中心にしながら「これから世代」に対しての転入を促進していくことを前提に、生産年齢人口と老年人口に上乘せしました。

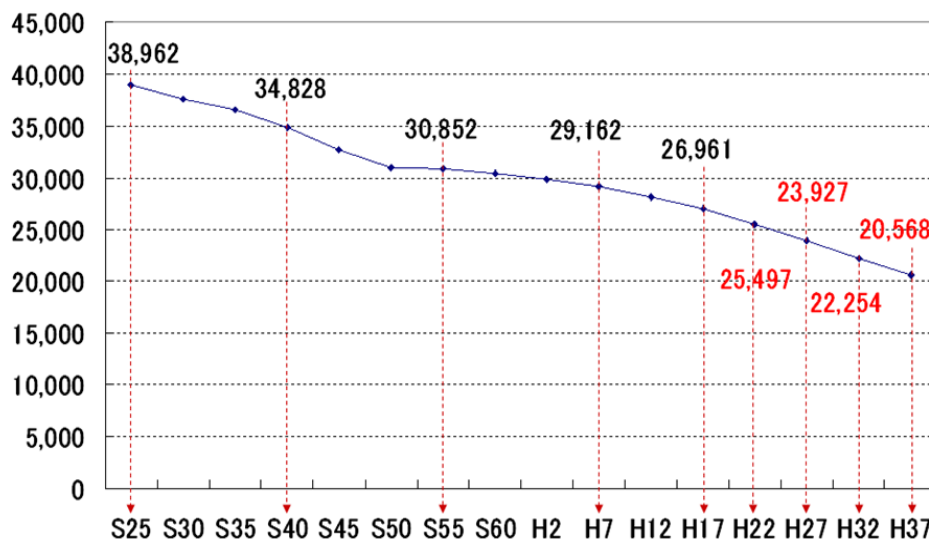
## 3. 産業構造

平成32年度における勝山市の産業別の従事者数を次のとおり想定します。

- ・第1次産業 1,110人（9.1%）
- ・第2次産業 4,330人（35.5%）
- ・第3次産業 6,760人（55.4%）

※従事者数は、既存産業の活性化、企業誘致の促進、観光産業の振興を目指し、平成22年度現在の各産業別の割合（推計）を平成32年度まで維持することを想定して算出しています。

—勝山市 人口の推計と推移—



※H17 国勢調査による推計